

豊後高田市の文化財補遺編 「新指定の文化財」

平成28年度 新指定文化財

【国指定文化財】

○田染荘小崎の農村景観 追加選定

【県指定文化財】

○若宮八幡神社

（本殿 附棟札一枚、申殿
唐門 附御門神社、西門）

○木造仁王像（阿形）

【市指定文化財名称変更】

○木造仁王像（吽形）

田染荘小崎の農村景観 追加選定

■文化的景観 ■選定日：平成28年10月 3日 ■所在地：田染小崎 ■年代：中世～



田染荘小崎の里山地区には、荘園の水田景観を支える水利と信仰物が多く残されている。地元では「中」及び「奥」と呼ばれる地域である。

愛宕池・空木池といった大型のため池は、長年水不足で苦しんだ田染荘小崎の水利を統一した画期的なもので、現在も池守によって大切に管理されている。特に空木池は、「小崎村空木池築立大概様子書（渡辺家文書）」により、天保7年（1836年）に造立されたことが分かっており、「永代村之宝池」と称されている。池から小崎川・大平川に流された水は、ヤマノクチイゼ・ケンノキイゼ・オヤマイゼなどを通じて、荘園の水利を支えている。

田染荘小崎は元々は六郷山伝乗寺・高山寺などの影響下に置かれ、峯入りのルートになっていたり、多くの岩屋が残されている他、多様な信仰が息づいている。愛宕社・奥愛宕社に見られる愛宕信仰は、日出町蓮華院の真言僧（山伏）によって持ち込まれたもので、「霊場記」では峯入りのルートに組み込まれている。奥愛宕社では、勝軍地蔵として地蔵菩薩像を祀る。三嶋社は戦国時代に小藤地区に土着した河野氏によって、杵築市山香の三嶋社から勧進されたものである。

この地域では近世から近代初頭にかけて、棚田・山畑が多く拓かれたが、現在ではその多くが里山農業に利用されている。石垣によって作られた平坦面にはクヌギ林・ホダ場が形成され、シイタケ栽培が行われている。

追加選定地域は、国東半島の農林業の循環システムの典型として世界農業遺産でも注目されている。

若宮八幡神社 本殿附棟札一枚、申殿、唐門附御門神社、西門

■有形 ■指定日：平成29年 3月 7日 ■所在地：是永町 ■年代：江戸後期

若宮八幡神社は852年(仁寿2)の創建と伝えられる。現在の本殿は、江戸時代後期に高田を領有していた島原藩主・松平忠侯によって造営された。

社殿群の配置は、南面する本殿に対し、正面に申殿、拝殿を配置する。社殿群の西側入口に唐門と御門神社を配し、社域の入口に西門がある。

本殿は三間社流造で、(金剛)棟札から1833年(天保4)の造営が明らかとなっている。建物規模が大きく、上方へとスラリと伸び上がるような軸部のプロポーションが大きな特徴である。屋根は伝統的な桧皮葺で、正面の千鳥破風・唐破風・側面には縫破風と屋根飾りを多用している。

また唐門も本殿と並んで素木の総ケヤキ造りで、彫刻を多用した江戸時代後期らしい建築である。屋根裏の墨書から1858年(安政5)の造営で、「豊後の左甚五郎」と評された大工・後藤熊四郎による建築であることが分かっている。

本殿との間に設けられた申殿や、西側に格式高い唐門を配置している点、本殿と同時期に造営されたと考えられる西門など、宇佐神宮に強く影響を受けた社殿配置を伝えていることも興味深い。



木造仁王像（阿形）

■有形 ■指定日：平成29年 3月 7日 ■所在地：田染真中 ■年代：平安末期～鎌倉初期

総高225.0cm。樟材の一木造。背削りを施し、後補の蓋を付ける。両肩・右手首・髻部は別材（左腕は一材で彫り出しており珍しい）。足先・後頭部・背中蓋は後補。色彩後補。

真木大堂の旧本堂に所在する本像は、阿吽の対で安置されているが、阿形像は裳の折り返し部分の太さなど平安時代の名残りを見せながらも、鎌倉仏らしい動的表現が随所に見られ、その様式により平安末期～鎌倉初頭の作（収蔵庫の仏像よりは新しい）と推定される。これは県下の仁王像では最古のものである。

吽形像は江戸時代後期の修理の際に造られた後補であり、当初の像が失われたことは残念ではない。通常仁王門など野外に近い場所に安置されることが多い仁王像だけに、地方において、これほどの状態で残されている例は極めて稀である。



木造仁王像（吽形）

■有形 ■指定日：昭和51年4月1日
■所在地：田染真中 ■年代：江戸時代

像高230cm。樟材の一木造。随所に阿形像の模倣が見られるが、記録等によれば江戸時代後期に造り替えられたもの。市内では木造仁王像の作例は少なく、なおかつ非常に大型の作でもある。

